

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490400142		
法人名	社会福祉法人 福寿会		
事業所名	グループホーム 日田園		
所在地	大分県日田市大字石井字熊ノ下711番地1		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成30年12月26日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成30年11月22日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人での研修を受けながら職員の資質の向上に力を入れている。小規模多機能と併設しており、交流の機会などもある。グループホームの広いスペースを利用して小規模多機能と合同で慰問を受け入れるなど、地域との関わりやサービスの提供に努めている。ご利用者同士お互いに声掛けあったり、助け合うなど関係も良好にて笑顔も多い。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・ホールは広くゆったりとしており、ソファやイスが置かれくつろげる場所作りとなっている。
- ・「心に笑顔、声にも笑顔」をモットーに利用者との触れ合いを大切にしている。
- ・法人内の各種研修が充実しており、利用者本位を基本とした支援の取り組みがなされている。
- ・併設された小規模多機能施設の利用者との交流が盛んで一緒に行事を行なったりしている。
- ・管理者と職員の関係が良く、意見が出やすい雰囲気であり業務改善に前向きに取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域や家庭とのつながりを大切にして明るく家庭的な雰囲気の中で本人の意思や人格を尊重したケアに取り組んでいる。利用者への対応時の声掛けや笑顔など毎日のケアの際には気を付けている。1年の法人目標として『心に笑顔、声にも笑顔』を唱和している。	「日田園三ヶ条」を毎朝朝礼の時に全員で唱和し、心や声に笑顔が出るよう心がけている。利用者本位の支援に心がけ職員全員がその実現に向け日々の業務において意識を持ってケアにあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には地域の自治会長や民生委員に参加していただいている。近くの保育園から運動会への招待を受け交流を行っている。	近隣の保育園より運動会の招待があり交流を持っている。年1回開催される公民館での町内ちびっこサロンに参加するなど地域の人たちとの触れ合いがある。法人の特養ホームに来る踊りや相撲の慰問を見に行く等、地域との交流が持たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人の取り組みとして認知症研修など地域の方に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催。入居者へのサービスを報告、ヒヤリハットや事故報告を行いアドバイスなどもいただいている。	民生委員・自治会長・市・包括支援センター等からの参加がある。園での利用者の毎日の様子を報告してアドバイスを貰っている。違った視点からの意見に気づきを感じることができている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者や包括職員に運営推進会議には可能な限り出席いただき、実情を報告し意見をもらっている。	困難事例などがあれば直ぐに市に出かけ相談して問題解決に当たっている。運営推進会議時でも市に相談するなど常に市との連携を密に図っている。転倒を未然に防ぐ方法やインフルエンザへの対処方等の意見を貰っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回以上の研修のほか、以前より法人にて設置している『身体拘束廃止委員会』に本年度より参加し、身体拘束の不要性を確認している。また運営推進会議の場でも報告している。	毎年法人内で研修会が開かれており、新聞記事などの事例をもとに研修をしている。園の玄関には施錠がなく職員の見守りの下、自由に出入りできる。利用者同士のつながりや声掛けがあり安心して暮らせる雰囲気である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回以上の研修を受けている。毎月の職員研修の際には高齢者虐待の新聞記事を事例として学び、その度に自己を振り返り日々のケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回の職員研修時に権利擁護について学ぶ場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には重要事項説明書について一項目ずつ説明し、疑問点を確認してご理解いただき契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに直接要望を伺う。法人で行う月1回の第三者相談会の案内やご意見箱の設置など、ご家族の意見を反映できるように努めている。	家族の面会時や日常の会話で聞いたことなどの情報を職員で共有している。毎月利用者の様子を報告しているが、その時にも意見等を聞いている。皮膚の観察をして欲しいという要望には職員全員で気を付けるよう意識統一をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員ミーティングで出た課題や、日々の業務時に気付いた課題など職員から聞き取り、反映させていくよう努力している。	月1回あるミーティングで職員から意見を出している。気づいたことがあればその都度職員連絡簿に記入し課題などを見出している。お互い言いたいことを話し合い、解決できるものはすぐ対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や実績を把握し賞与に反映する。また評価に応じてキャリアアップする仕組みを作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間24回以上の研修会を実施している。法人内の多職種等の研修を受け連携も深める。その他実務者研修の通信教育や喀痰吸引研修も法人内で受講できる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者と協議会を作り、管理者は情報交換、研修会や交流会でサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化に戸惑い、不安を話す入居者に対して傾聴している。 入居者からの要望には柔軟に対応し、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際してご家族の心情を思い、要望へ耳を傾けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者とご家族の主訴を聞き取りし、主訴が曖昧な場合焦点化し、入居者・ご家族の必要としていることを見極め対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	強要することなく本人の「やりたい」「できる」との思いを実行することで一緒に生活する環境づくりを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族や友人と一緒に過ごす時間・環境づくりに取り組んでいる。入居者の様子や要望など月の請求書を送付する際にお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者への面会は積極的に受け入れている。受診などの外出時、入居前に利用していた場所へ行くことなど取り組んでいる。 小規模多機能と併設しており、お互いに交流を持つなど新たな関係づくりも心がけている。	昔からの友人が訪れている。受診時馴染みだったスーパーに行ったり、お墓を近くから見ると懐かしさをよみがえらせている。来園する美容師と何度も話すうちに新しい馴染みの関係が生まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の個性を尊重している。 入居者同士お互いに声掛けしたり、気に留めるなど良好な関係を築くことができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて連絡を取り、またご家族からの相談にも対応する。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り入居者の意向に沿えるように努めている。施設で対応できない場合にはご家族に協力していただいている。	入居時希望を聞いている。また日々の関わりの中で何気ない言葉や表情などで感じ取り、希望に沿えるよう努めている。利用者本位にそれぞれ個別の対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からこれまでの生活の様子を伺い、馴染みの暮らし方に近づけられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方や心身状態を把握し、職員間で共有し、入居者が残存機能や有する力などを維持することができる様取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状把握に努めるとともに、入居者やご家族の意向を聞き、職員間で日常生活でのケアの在り方について意見を出し合うことで、ご利用者にあつた計画作成を行う。	ミーティングで利用者それぞれの課題を見つけながら希望に添えるよう職員皆で話し合い計画を作成している。状態が変わればその都度看護師などの意見ももらいながら計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄・食事量・水分摂取量・バイタル・介護経過など一覧できるよう記録し情報の共有に努めている。24時間経過シートを使用しており1日の状態把握している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時間や外出時間などは家族の希望に合わせている。そのほかの支援については家族と事業所に実情を踏まえながら、できることは多機能に取り組みたいと考える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや行事に参加する。また、併設する小規模多機能との交流なども行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、入居前のかかりつけ医に受診していただくように家族にお願いしている。その際、日常の様子など医師に伝えてもらっている。家族との受診を基本としているが必要に応じて職員で対応している。	これまでのかかりつけ医をそのまま継続して主治医としている。受診は家族対応だが受診結果を園も把握して常に利用者の心身の状態を把握している。協力医として訪問歯科の体制も確立している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常や変化に気付いた時には看護師や管理者への報告・相談し必要な場合かかりつけ医や専門医へ受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は事業所内での様子など入院時情報提供表を提出し、面会に行った際には病院関係者との情報交換を行う。退院後は、当施設での日常生活にスムーズに戻るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応については、グループホームでの対応には限りがある事を書面化し、家族に説明するよう取り組む。以後の受け入れ先として特養への入所や医療機関への入院を考えていただくように話を進めていく。	入居時に重度化した場合の対応について指針を設け同意書をもっている。園としてできる事、出来ない事を説明し本人・家族と話し合いを持っている。看取りは行わず、特養ホーム入所や病院への入院を勧めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法や事故発生時への対応の確認を行っている。マニュアルを作成し適切な対応に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練や緊急連絡訓練や防災研修を実施している。	昼間・夜間想定避難訓練を利用者と共に行っている。緊急連絡網を整備し緊急時には関係機関や職員への連絡ができる体制を整えている。備蓄は母体の特養ホームにある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシーへの配慮する声掛けを行い対応している。思いを尊重できる様心掛けている。	一人ひとりの時間を自由に使っていただくという気持ちで接している。声掛けも他の利用者を配慮して行き、本人の尊厳を大切にされた対応をしている。記録は人の目に触れない様気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自己決定が必要な場合には、こちら側から選択肢を提案し自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限りその日の心身の状態に合わせて希望に沿い1日を過ごせるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみができるよう洗面台にはブラシを用意。衣替えなどを家族にお願いし季節に合ったその人らしいおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は委託業者が調理し、配達してもらっている。1ヶ月に1週間の誕生・行事食として特別食を提供。土曜日の朝は主食をパンにし毎週異なるパンが提供されている。	下膳やテーブル拭きなどを利用者と共に行っている。誕生月にはケーキを食べたり、月に一度は特別食で季節感のある食事の提供に努めている。受診の帰りに外食したり、普段と異なる食事が楽しめるように工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の記録している。偏食の入居者へは病院より栄養ドリンクをもらい飲んでいる。食事形態の変更や水分・汁物のとろみ付けなどひとり一人の状態によって対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけや誘導にて入居者へ口腔ケアを促している。自歯や義歯の磨き直しなどの必要なケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを確認し、時間をみて声掛け・誘導している。入居者からのサインなどを見極めて自立に向けた支援を行っている。	現在ほとんどの利用者は一人でトイレに行っている。排泄パターンを理解して声掛けしトイレ誘導を行っている。夜間でも利用者が自発的に起きて職員の見守りの下トイレに行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認、便の状態の確認。必要に応じて内服薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在、曜日・時間を決めて実施している。個浴を利用して入浴をしている。曜日の変更は可能にて臨機応変に対応している。また、体調へ考慮しながらゆっくり入浴できる時間を提供するよう努めている。	週3回の入浴である。入浴日は利用者毎決まっているが、嫌がる時は無理強いせず様子を見ていいタイミングで入浴を行っている。入り方も個人を尊重し、ゆっくり時間をかけてその人のペースに合わせて入浴を楽しんで頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日のうちできる限り離床を促し、身体を動かすよう体操など取り入れている。起床や就寝時間は希望に沿い対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の仕分けは看護師が行い、毎食後の配薬は当日の職員が行う。薬の内容の変更や追加などはその都度職員間で情報を共有し状態の観察など行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや掃除、下膳の手伝いなど、それぞれの身体状態に合わせて役割を持っていただいている。活動の時間を作り一人ひとりの好みや希望に沿った取り組みを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとり個別の外出支援には限りがあり、外出については家族に協力していただいている。家族が対応できない入居者へは受診の際屋敷をキャンセルして外出し、外食や買い物などしている。季候を見て戸外に散歩へ行くよう努めている。	気候の良い時は1、2名で園の周りを散歩している。花を見たり草を踏みながら談笑して気分転換にもなっている。受診時お墓や自宅の前を通ったりしている。	比較的介護度が低い利用者が多いので桜や紅葉など数人ずつでもドライブに出かけるなど外出の機会を多くすることが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、入居者は現金を保管していない。 帰省した際、小銭を持ちもどった方については、保管し外出した際本人がに支払うことができる様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を保有している入居者への支援、手紙を書く方に切手の購入や手紙の投函などの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れるよう心掛けている。共用スペースが広く、車椅子や歩行器での移動もスムーズに行うことができる。テレビ前にはソファを置いて入居者がくつろげる場所を提供している。	ホールは広々としておりイスやソファが置かれゆっくりとくつろげる場所作りがされている。壁には絵画が掛けられ、季節感を感じさせる作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間の中で好きな場所で過ごしていただくようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際ご家族に、使い慣れたものや可能な限りの家具などの持ち込みをお願いし、入居者の落ち着け、居心地の良い環境づくりができる様努めている。	これまで使い慣れた家具が持ち込まれ、家族の写真や小物などが飾られており入居前までの生活と変わらないような雰囲気づくりをしている。利用者が落ち着いて生活できるような配慮が伺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間の居室でのポータブル使用やトイレ誘導など身体状態に合わせて対応している。 転倒の押しれがある入居者にはセンサーマットを使用し訪室することで転倒・怪我の予防に努めている。		